

# 学校概要

## 1 学校名 豊橋市立富士見小学校

※ 本校の校章 富士見小学校の「富士見」を漢字でデザイン化したものを下から新芽の形で囲み、これから伸びていく学校を象徴したものである。

### 【校章】



## 2 学校所在地等

〒441-8135

愛知県豊橋市富士見台二丁目1番地の5

TEL:0532-23-3232 FAX:0532-44-2065

URL: <http://www.fujimi-e.toyohashi.ed.jp/>

e-mail: [fujimi-e@toyohashi.ed.jp](mailto:fujimi-e@toyohashi.ed.jp)

### 【交通案内】

豊橋鉄道渥美線大清水駅下車 南へ徒歩30分

豊橋鉄道渥美線大清水駅下車後 バス乗車 レイクタウン線学校西下車すぐ

## 3 学校規模

学級数 : 通常学級 13 特別支援学級 2 合計 15 学級

教職員数 : 校長 1 教頭 1 教諭 18 養護教諭 1 常勤講師 1

非常勤講師 5 事務長 1 業務士(用務) 1

業務士(給食) 2 合計 31名

児童数 : 男子 214名 女子 189名 合計 403名

## 4 本校の教育

### (1) 校区の歴史

富士見校区は天伯原台地上に位置している。戦時中は陸軍の演習地として使われていた。荒れ地であった天伯原台地が、戦後の昭和20年11月に食糧増産のため緊急開拓事業が閣議決定されると、名古屋からの入植者により農地に変わっていった。

昭和30年代後半からは日本経済の高度成長期であった。豊橋地方でも昭和38年に国から東三河工業整備特別地域の指定を受けると、大工場の誘致が進み、従業員らの大住宅地の確保が急務となった。昭和49年から住宅地の造成工事を開始し、昭和51年から入居が始まった。わずか数年の間に人口が2000人を超えるようになった。最初は大清水校区であったが、昭和59年に分離して、新たに市内の48番目の校区として

発足し、今年で30年目を迎える。

## (2) 本校の教育目標

- ・「いのち」を見つめる教育活動を推進し、知・徳・体の調和のとれた人間形成を図り、豊かな心を持ち、21世紀をたくましく生きる子どもの育成を目ざす。

ふ・・・ふかく考える      ・感じる（体験から）→思う→考える  
じ・・・じょうぶな心と体・健康意識（心）→個にあった継続→習慣化  
み・・・みんな仲よく      ・認め合う→支え合う→生かしあう

## (3) 経営方針

- ・全職員の英知と情熱を結集し、子ども一人一人をよく見つめながら、共通理解に基づき、「いのち」輝く教育活動を推進する。
- ・基本的な生活習慣と善悪の判断を身につけ、共生意識を育み、思いやりの心をもって接する子どもの育成に努める。
- ・自分の「いのち」「からだ」は自分で守るという意識を高め、すすんで心身を鍛え、規則正しい生活を送る態度を育てる。
- ・教育のプロとして授業力や学級経営力の向上を目ざし、進んで研修に努める。
- ・地域の特性や教育力を生かした授業づくりをすすめながら、家庭・地域との連携を深め、地域と共に歩む学校づくりを目ざす。

## (4) 本年度の重点努力目標

スローガン

深く考える      丈夫な心と体      みんな仲よく

※ 創立30周年を機に、富士見小教育目標の創生原点を再確認し、「心」に視点を当てた指導体制の確立

- 自ら学び自ら考える力を育てる学習活動の推進
  - ・基礎基本の定着と思考力・判断力・表現力の育成に努める。
  - ・体験的・問題解決的な学習を通して、自ら問題を解決できる子どもの育成に努める。
  - ・朝の読書タイムを設けるなどして、全教職員が連携して読書活動の充実を図る。
- 「いのち」輝く教育活動の推進
  - ・栽培、飼育や集会活動を通して「いのち」の大切さを感じる活動を進める。
  - ・善悪の判断力や思いやりの心を育てるため、道徳の授業の充実を図る。
  - ・教科体育やスポーツタイム、部活動、外遊びなどを通して、気力と体力の向上を図る。
  - ・高学年がリーダーとなる縦割り活動の充実を図る。
- 教育のプロとしての力量向上
  - ・研究授業、現職研修、若手教員研修などを通して、教師集団のスキルアップを図り、授業力の充実を図る。
  - ・一人一人を生かし、活気ある学級をつくる経営力の向上を図る。
  - ・「つばめ塾」「親つばめ」など職場内での学び合いの場の充実を図る。
  - ・あらゆる場面での危機管理能力を高める。報告・連絡・相談を励行し、法令・サービスの遵守、個人情報管理の徹底を図る。
- 安心・安全な学校、開かれた学校づくりの推進
  - ・校区各種団体との連携を強め、子どもの事故防止と安全確保に努める。
  - ・学校評価システムにより学校改善に努める。
  - ・保護者、地域への情報発信や学校公開を進め、家庭と学校との連携を強める。
  - ・地域教育ボランティア制度の活用により、教育活動の活性化を図る。

# Application for Participation

## Associated Schools Project (ASP)

### for Promoting International Education

校区の人との関わりを通してふるさと富士見をつくろう

## Outline of the way the Project(s) will be implemented in the institution

(please use extra sheets if necessary)

### Description of the Project (プロジェクトの概説)

本校は30年前、新興住宅地と一緒につくられた小学校である。本校は開校当初から、「ふるさと富士見」を合言葉に、校区の人から話を聞く会を開くなど、地域に根ざした活動を実践してきた。また、本校は「りんご皮むき大会」や「子つばめ隊」など、本校独自の活動も多い。本校は、これらの行事を中心に、地域とともに地域から学ぶ持続可能な開発のための教育(ESD)を推進することにより、人間性豊かな富士見の児童の育成をめざしている。

本校はESDを確実に推進するために、これまでの教育課程を見直し、生活科・総合的な学習の時間を中心に、「地域の人とふれあい、地域の人から学ぶ活動」、「子つばめ隊の活動」、「親子のふれあいを高める活動」を取り入れたESDカレンダーを作成し、実践を行っていくこととした。

本校は、このESDカレンダーを基にした実践を継続していくことで、将来にわたって、自分の地域のよさに気づき、地域への愛着心を育てていくことができると考えている。

### Objectives of the Project (プロジェクトの目的)

本校では、ESDを「人間関係づくり」の観点から、人との関わりを通して自分たちが住む町の学習を深めることが、持続可能な社会づくりの担い手を育てる教育であると捉えている。そして、そのことが、児童の人格の発達や人間性を育てる基礎となり、ふるさと富士見を愛する気持ちを高めていくと考えている。

そのため、本校では3つの活動で、次の目標を掲げている。

#### (1) 地域の人とふれあい、地域の人から学ぶ活動

- ・特別養護老人ホーム「彩幸」への訪問、老人会クラブとの伝承遊び 等
- ・地区の人から話を聞く会 等

地域の産業やボランティア活動などの話を聞く事により地域の特色を学ぶとともに、交流を通して思いやりの心を育てる。

#### (2) ボランティア活動(子つばめ隊の活動)

- ・あいさつ運動、公園の落書き消し、トイレ清掃 等

児童がボランティア活動の内容を自分たちで考え、協力して行う事により、自主性、責任感を高める。

#### (3) 親子のふれあいを高める活動

- ・りんご皮むき大会、運動会、富士見っ子発表会(学芸会)、授業参観(年6回)、作品展示会(夏休み作品展、版画展)

さまざまな行事を通して、親子で話し合いや活動をすることにより、親子のきずなを深め、よりよい親子関係を築く。

## Execution (プロジェクトの実施)

(e.g. through a specially designed course, through an existing course(s) or as an extracurricular activity)

本校では、前述の目的のとおり ESD の取り組みを人間関係づくりという観点から学習を進めていく。本校は、その学習を深めていくことで、地域のよさや社会の一員としての価値観を見だし、基礎的な能力を養うことができると考える。また、それは持続可能な社会づくりの担い手を育てる教育にほかならないと捉えている。

富士見校区は、高度成長期に大企業の社員住宅向けにつくられた新興住宅地である。そのため、住民は全国各地から集まってきており、住民同士のつながりを深めることが重要である。また、両親とも働いている児童が多く、親子の会話の機会が少なくなりがちである。そのために、本校ではいろいろな行事や活動の中に校区の人材を取り組むことにより、「ふるさと意識」の育成を図るようにしてきた。また、親子のふれあいを通して、共働きで希薄になりつつある家族関係の再構築をしてきた。

その行事の一つが「りんご皮むき大会」である。家庭での練習を通して、親子のふれあいを深めるとともに、むいた皮の計測を学校ボランティアの校区の方が行うことにより地域の人とのふれあいを深めてきた。この「りんご皮むき大会」は、開校以来30年間続いており、本校・地域の伝統行事として定着している。

子つばめ隊の活動は、平成23年度から始まった活動である。児童が自分たちで内容を考え、自主的に行うボランティア活動である。その活動を通して地域の人とのふれあいや、自主性、責任感などの人間性を育むことができると考えている。

各学年で、目標を達成するために、総合的な学習の時間や生活科等で地域の人とふれあいの時間を確保しながら学習を進めていく。そのための実践計画として ESD カレンダーを作成し、実践を進める

### ○地域の人とふれあい、地域の人から学ぶ活動

- ・ 1年 むかしのあそびをしよう (老人クラブとの交流)  
おしえてあげるよあそんであげるよ (幼稚園児との交流)
- ・ 2年 レッツゴー! 町たんけん
- ・ 3年 ふじみトレンジャーハンター  
店ではたらく人  
キャベツ畑見学 (農家の人から学ぶ)
- ・ 4年 特別養護老人ホーム「彩幸」への訪問  
ゲストティーチャーの話の話を聞こう
- ・ 5年 米作りに挑戦!  
トヨタ自動車田原工場見学
- ・ 6年 ボランティアについて学ぼう

### ○学校や校区のために行うボランティア活動

- ・ 6年 子つばめ隊+ (1年から5年の希望者)  
朝のあいさつ運動、公園のベンチのペンキ塗り、校庭の草取り 等

### ○親子のふれあいを高める活動

- ・ 全学年 行事と関連づけて行う  
りんご皮むき大会: 家で親から子へ皮むきの仕方を伝える  
運動会: 親や地域の人と一緒に活動するプログラムを入れる 等

(1) 活動を進めるための ESD カレンダー (6年生の例)

教科領域	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
国語	●学校の良さを宣伝しよう						●お世話になった人にお礼の手紙を書こう					
道徳	●学校のほこり ●サマーボランティア											
総合	●子つばめ隊 (通年) ●ボランティア活動について地域の人から話を聞く会											
行事									●りんご皮むき大会 ●感謝の会			

(2) 地域の人とふれあい、地域の人から学ぶ活動



〈特別養護老人ホーム「彩幸」への訪問〉  
カードゲームや将棋などを一緒に行っている。また、演奏も披露している。



〈地域の人から話を聞く会〉  
学校ボランティア (おやじの会) から、ボランティア活動の意義や心構えを聞いている。

(3) ボランティア活動



〈子つばめ隊の活動：運動場の草取り〉  
昼放課に行った運動場の様子。1年から5年の希望者も一緒に草取りをしている。



〈子つばめ隊の活動：あいさつ運動〉  
朝の登校時に大きな声であいさつ運動を行っている。

#### (4) 行事等に関連づけた活動



##### 〈りんご皮むき大会〉

家で練習してきた成果を見せようと一生懸命に取り組んでいる。



##### 〈運動会〉

各学年ごとに、児童対保護者・地域の人で綱引きをしている。

#### Type of materials to be used (使用する教材)

「小学校 キャリア教育の手引き」、文部科学省、2010

「夢を見つけ夢をかなえる航海ノート」、愛知県教育委員会、2012

#### Is there any type of evaluation to examine the effects of the project on students' comprehension and attitudes? (プロジェクトに対する生徒の理解と姿勢の評価方法)

児童の理解と姿勢への評価は、以下のように行う。

- ・児童のさまざまな活動への取り組みの成果を事後のまとめや感想、発表から把握する。
- ・学習や活動のまとめとしての授業参観や作品展示会、行事等での成果の発表や地域への発信を通して、関心・意欲・態度を観察し評価する。

上記の評価と共に、さらに下記のことを実施して、ESD活動のさらなる充実を図る。

- ・行事後のアンケートや7月と12月の全児童・全保護者を対象としたアンケート調査結果をホームページで公開するとともに、学校評議員に伝え、アドバイスをいただく機会を年2回設ける。
- ・児童の実態や地域の特色に沿ったカリキュラムになるように、今年度の実践を基にESDカレンダーを見直し、地域学習に関する具体的な活動内容の改善を図る。

*On behalf of my institution, I apply for participation in the UNESCO Associated Schools Project and give the assurance that this institution will make an active contribution to the Project, as outlined above, for a minimum period of two years. At the end of every year, I shall submit a report of the Project to the ASP National Co-ordinator of my country.*

(本学校を代表して、ユネスコASPの参加申請をし、少なくとも2年間は上記概要にそってASPに貢献する活動を行うことを確約します。また、毎年ASPコーディネーター(※日本の場合は日本ユネスコ国内委員会)に活動のレポートを提出します。)

3 / 3 / 2 0 1 4

**Date** (日付)

---

校長  
豊橋市立富士見小学校

**Principal's name** (校長名 (※直筆))

**Position,** (役職)

**Institution's name** (学校名)